

## 目 次

### (1) 事業報告 1

■平成 23 年度災害時外国人支援ネットワーク研修

### (2) 事業報告 2

■オリオン寮避難訓練&キャリアカウンセリング

### (3) 事業報告 3

■安藤プログラムインタビュー I

### (4) 事業報告 4

■国際理解教育事業:安藤研修生との英語交流

### (5) お知らせ

■外国人の子どもとその親のための無料電話相談会

■外国人留学生のための合同企業説明会参加者募集

### (6) OFIX 国際交流員のレポート

■フィリピンのクリスマス1

## (1) 事業報告 1

### ■平成 23 年度災害時外国人支援ネットワーク研修

3月11日に発生した東日本大震災をうけ、11月8日(火)に在関西総領事館等と連携した防災ワークショップを実施し、近畿地域国際化協会連絡協議会(近畿クレア)関係者、近畿内行政関係者、外務省大阪分室、入国管理局関係者及び総領事館関係者総勢68名が参加しました。午前には阿倍野防災センターでの防災訓練を行い、午後のワークショップでは OFIX のあるマイドームおおさかの8階会議室にて非常食体験、100円ショップで買える防災グッズ紹介、近畿クレアの紹介及び東日本大震災における活動発表、多言語ラジオ放送のFM.COCOLOの案内を行った後、総領事館関係者との意見交換会の機会を設け、貴重な情報共有の場となりました。



【阿倍野防災センターでの初期消火体験】

今後はこのワークショップを契機としてそれぞれの関係機関の連携を強化して外国人が住みやすい環境を目指していきます。



【非常食体験】

### 【参加者の感想・意見】

・災害時の近畿クレアやFM.COCOLOの具体的な外国人支援活動について、現地での具体的な事例について知ることができてとても役に立った。  
・阿倍野防災センターでは、バーチャル地震体験や初期消火体験など様々な活動を通して、地震が起きた時に何をすべきかを学び、防災意識を高める点で有意義だった。  
・地方自治体や総領事館関係者の参加者と意見交換する貴重な機会が持てて良かった。総領事館と地方自治体と情報共有する機会を増やし、万が一の時にはすぐに連絡が取り合える連携体制を構築していきたい。

## (2) 事業報告 2

### ■オリオン寮避難訓練&キャリアカウンセリング

11月12日(土)オリオン寮にて避難訓練、キャリアカウンセリングを開催しました。

今後30年以内に60%～70%の確率で東南海、南海地震が発生するであろうと言われています。今回は震度6の巨大地震が発生したという想定で避難訓練を行いました。

現在、寮内には約80名の留学生が住んでいます。実際に地震を体験していない寮生や3月に発生した東日本大震災後に来日している寮生もいて、地震に対する知識が少なく、実際災害が起こった時にどのように避難すればよいのかを知らない寮生が沢山います。

訓練には寮生41名が参加し、避難する時は独りですのではなく、みんなで声を掛け合い協力し合って全員で避難場所へ行くことを指導し、実際に避難場所である西百舌鳥小学校まで参加者全員で歩き、寮からの避難ルートを確認しました。

日頃から災害に備えて準備をしておくもの、地震が発生した場合の行動、安否確認の際に便利な171伝言ダイヤルの使い方、地震に伴う火災が発生した場合の初期消火方法等の説明の後は、大阪府北堺警察署の方の防災指導を受けました。

訓練終了後、訓練に参加出来なかった寮生が参加した寮生と一緒に避難場所まで歩きに行く姿を見て、以前より災害に対する意識が強くなっているのを感じました。

避難訓練の後は、財団法人大阪労働協会のカウンセラーの方に来ていただき、希望者個別に

キャリアカウンセリングを行いました。熱心にカウンセラーのお話を聞き、相談し、1時間以上カウンセリングを受けていた寮生もいました。カウンセリングを終えた寮生からは、「とても勉強になった。是非またして欲しい。」との要望がありました。

OFIXでは今後も、就職セミナー、防災訓練等留学生支援を行っていきます。



キャリアカウンセリング



避難場所へ向かう寮生

### (3) 事業報告3

#### ■安藤プログラムインタビュー I

第 39 号でご報告した安藤基金・大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業の研修生にインタビューを行いました。今回は、(株)大林組で研修を受けたヘッティ・アレッチゲ・アマル・プリヤンタ・ペーリス・ウェンナップワ(スリランカ)とワン・ウェンヤ(中国)、(株)銭高組で研修を受けたトラン・フアン・キエン(ベトナム)とラシャニポン・ティエンパオートン(タイ)の 4 人のインタビューをご紹介します。

1. 大阪は初めてですか。印象はどうですか。

ー初めてです。来日したことがある友人から聞いていた通り、日本は住みやすく、人々はとても親切です。地下鉄に乗る方法が分からなかった時近くにいた女性のガードマンに道を聞きました。彼女は親切に道を教えてくれましたが、途中で違った道を教えたことに気づいたようで、急いで私に走り寄ってきて、紙切れを見せました。そこには、英語で違う道を教えたことへの謝罪の文章が書かれていました(おそらく英語ができるスタッフに書いてもらったのでしよう)。この経験を通して私は、日本人の親切心を心から



実感しました。(ヘッティ・アラチャチゲ・アマル・プリヤンタ・ペーリス/スリランカ)

2. 日本と自国の違いは何ですか。

ー日本語と中国語は言葉や漢字が似ているので、言葉の

意味は何となくわかりますが、狭い道、ビル、一軒家等、街の構造に違いを感じました。

(ウォン・ウェンヤ/中国)

3. 休日はどのように過ごしましたか。

ーホストファミリーと一緒にお酒を飲んだりして交流を楽しみ、焼き鳥や梅酒の作り方を教わりました。また芸術、音楽、やその他の専門分野に携わっている多くの人達との交流ができました。

(ラチャニポン・ティエンパオートン/タイ)

4. 安藤忠雄氏の建築について印象について。

ー安藤氏は中国でも有名で、本で読んで知っていました。安藤氏は経験豊富で、彼の建築物は個性的で、ユニークです。(ウォン)

ー彼の建築物はとてもシンボリックで、広い空間をうまく生かしており、若い建築家たちにインスピレーションを与えるものです。それは、仏教の「禅」に共通するものがあると感じます。デザインは一見硬そうなイメージですが、その空間から居心地の良さを感じ取れます。彼のデザインは調和が取れており、さらに探求したいと思わせるものです。(トラン・ホン・キエン/ベトナム)

5. 建築に興味を持ち始めたきっかけは何ですか。

ー建築物は人間による創られた環境であり、人々の生活に深く根ざしているものです。仏教の信仰には4つの基本的な概念(1.衣 2.食 3.住 4.薬)があり、その中で「住まい」は人間にとって一番重要なものなので、建築家を目指そうと思いました。(ラチャ)

6. 受入先企業の研修はどうでしたか。

ー大林組は一流企業であり、働かされている人たちは忙しいのに、設計プロジェクトを手伝ってくれました。大林組での研修は私の人生の最初で最後の素晴らしい経験となりました。(アマル)

ー非常に良かったです。銭高組では、お互いに助け合いながら、仕事を進めている点やまた研修プログラムを変更して、京橋にある「KiKi」や安藤氏建築による「光の協会」に連れて行ってくれたことが印象に残っています。(ラチャ)

7. 受入企業研修に参加して学んだ事は何ですか。

ーチームワークやお互いを尊重する気持ち、そして建築の現代技術について学びました。(アマル)



ー日本人の仕事に対する勤勉さを学びました。  
(キエン)

8. 研修を通して学んだ事を自国でどのように生かしたいですか。

ー安全な国にするためにも、スリランカを良くしていかなければなりません。帰国後は、日本で撮った写真やアイデアを仲間と共有するなど、小さいことから始めようと思います。(アマル)

ー100年間持つ建築物をデザインし、建造できる建築家

になりたいです。(キエン)

9. 最も印象に残っている事を教えてください。

ー迅速に、根気強く、黙々と働く大林組の人たちの勤務態度が一番印象に残っています。(ウオン)

ー特に神戸の防災センターの見学が最も印象に残りました。災害防止の技術や制御システムについて知り、実際に現場で試してみたいと思いました。また現場での設計過程における厳密な手順を踏む事とまた精密な工程をたどる事の大切さを実感させられました。(キエン)

#### (4) 事業報告4

##### ■国際理解教育事業:安藤研修生との英語交流

平成23年10月14日(金)に、国際理解教育事業の初の試みとして、大阪大学の学生団体『パンキョー革命』との共催で、H23年度大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業の研修生と『大阪と日本人学生のグローバル化』と題して、英語でのワークショップを大阪大学豊中キャンパスで開催しました。

まずは、インドネシア、タイ、ベトナムと中国の4人の研修生が、今後の人生のライフ・プランについて話をしました。その後、大阪府 府民文化部 都市魅力創造局 国際交流・観光課の吉村 圭次様より、大阪府の国際化戦略アクションプログラムの概要についてお話いただきました。このアクションプログラムを踏まえて、参加した約20名の大阪大学の学生が、7カ国から来た8名の研修生と、「どのようにすれば大阪の国際競争力を上げ、もっと留学生を呼び込めるか」「どのようにす

れば日本人学生が国際的に活躍出来る人材になれるのか」の2つの問題について議論しました。

プログラム終了後の交流会では、インドネシア、スリランカ、インド、ネパールの研修生が、日本でのカルチャーショック(驚いた出来事)について語りました。

とても短い時間でしたが、日本人学生は大阪府の国際化戦略アクションプログラムについて様々な国の人と討論しながら交流を深める事で、視野を少し広げるきっかけとなり、また研修生にとっては日本に対する理解を少し深める良い機会になったと思います。

大阪府と当財団は協力しあい、今後もこのような英語ワークショップを開催し、外国人と日本人学生との交流を促進すると共に、日本人学生が様々な国の人の前で、自分の意見を英語で発表出来る場を提供していきます。

#### (5) お知らせ

##### ■外国人の子どもとその親のための無料電話相談会のお知らせ

この度、大阪府外国人情報コーナーでは大阪府 府民文化部 都市魅力創造局 国際交流・観光課の依頼の元、言葉の壁によって悩みを抱える外国人の保護者あるいは子どもを対象とした、無料の電話相談会を12月22日(木)～24日(土)の三日間にわたり、開催いたします。当日は当コーナーの相談員に加え、外部の専門相談員や助産師、弁護士、行政書士などが、相談をお伺いいた

します。また相談は日本語以外にも英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語、タイ語、フィリピン語、ベトナム語での対応が可能ですので、言葉に不安がある方でも、安心してご相談いただけます。

一人で悩みを抱えずに、よりよい解決方法を一緒に探すために、私たちにお電話してみませんか？お待ちしております。

<b>外国人の子どもやその親のための無料電話相談会</b> ★相談無料(電話代は自己負担) ★秘密厳守	
<b>(学校生活に関すること)</b> いじめ、不登校、就学、学習、進級・進路(進学、進路変更、中途退学)、 その他学校生活での悩みなど	
<b>(生活に関すること)</b> 母子健康(妊娠、出産、産後のケア等)、子育て、子どもの教育・しつけ、虐待、 家庭内の暴力、出入国・在留資格、離婚・国籍の法律問題など	
<b>相談日時:</b> 平成23年12月22日(木)	午後5時30分から午後9時まで
23日(金・祝)	午前9時から午後5時まで
24日(土)	午前9時から午後5時まで
<b>電話番号:</b> 06-6941-2297(大阪府外国人情報コーナー)	

##### ■外国人留学生のための合同企業説明会参加者募集

外国人留学生と外国人留学生を積極的に採用予定の企業との出会いの場を作る本年度第2回目のJOBFAIR(合

同企業説明会)を開催いたします。外国人留学生の採用に積極的な約100社の企業が出展を予定しており今回

